

令和8年度事業計画及び事業費

1 環境保全に関する交流推進事業 【1,110千円】

(1) 北東アジア地域自治体連合環境分科委員会推進事業 510千円

富山県は北東アジア地域自治体連合（NEAR）環境分科委員会のコーディネート自治体（任期：2年間）を務めている。NPECは北東アジア地域の各国・地域における環境保全の相互対話及び交流を促進するため、富山県からその事務局業務を受託し、連絡調整、情報交換等により環境分科委員会の活動を推進する。

(2) 海洋環境保全パートナーシップ形成事業 600千円

NPECが環日本海地域等における国際環境協力の中核拠点となることを目指して、視察・研修の実施及び会議等への出席を通じ、「産」、「学」、「官」それぞれの分野の機関、団体の専門家等とのパートナーシップの形成を図る。

- ・ 関係国・自治体・団体の視察・研修
- ・ 関係会議・学会への出席・参加

2 環境保全に関する調査研究事業 【10,592千円】

(1) 漂着物の発生抑制に関する調査・啓発事業 3,212千円

漂着物等の実態把握、市民の漂着物等に係る意識の向上及び関係者による対策の連携強化を図るとともに、漂着物等の発生抑制対策の必要性を再認識してもらいその実践を促すため、次の業務を富山県から受託し、北東アジア地域の海を共有する自治体、市民等と連携して実施する。

・ 海辺の漂着物調査

市民の参加を得て、漂着ごみ（マイクロプラスチックを含む。）の種類、数量等を調査する。

・ 漂着物アート制作

市民に漂着ごみの発生抑制対策の実践を働きかけるため、漂着物を利用したアート作品を制作・展示する。

㊦ (2) SDGs14.1.1a 地域指標開発事業 3,090千円（JAXA【共同研究】）

SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」の個別ターゲットである沿岸富栄養化の削減効果の定量的な評価に貢献するため、令和7年度はNOWPAP海域を対象に地域指標及び指標による目標の達成度の報告を支援するシステムを開発した。令和8年度は、東アジア、カリブ海、ラテンアメリカ海域等の他の地域海行動計画の海域を対象に開発を実施する。

㊦ (3) 藻場ゆりかご効果の解明に関する調査・研究事業 4,290千円（環境省（環境研究総合推進費事業））

令和6年度の環境研究総合推進費新規課題として採択されたS23沿岸環境・生態系デジタルツインプロジェクト（研究代表機関：国立環境研究所）に参画し、沿岸環境・生態系のデジタルツインプラットフォームの開発を進める。当財団は、研究分担者として葉上生物のサンプリング、環境DNAを活用した魚類の分布調査等を実施するとともに、藻場の生育場、餌場としての機能を検証し、その「ゆりかご効果」の定量化・見える化を目指す。

3 環境保全に関する施策支援事業

【 1,276 千円 】

(1) 広報・普及啓発事業 1,276 千円

海洋環境保全意識のより一層の醸成を図るため、次の事業を実施する。

- ・ **ウェブページによる情報発信**

ウェブページの内容の充実に努め、NPECの活動状況、各種の環境情報等の発信を行う。また、情報発信に必要となる通信環境の維持管理、セキュリティ向上等を図る。

- ・ **国際環境協力の連携・発信**

メルマガ、出前講座及び環境サポーター団体等が実施する環境活動との連携等を通じて、豊かな海づくりにつながる国際環境協力の事業を市民に発信する。

(2) 北東アジア地域生物季節調査推進事業

北東アジア地域における脱炭素社会への移行に係る意識醸成を図るため、気候変動の影響を身近に感じることができる「生物の季節変化」（サクラの開花、トンボの初見等）に注目し、富山県と連携して、北東アジア地域の各自治体での調査及び学習会の実施を促進する。

(3) 北東アジア地域環境ポスター展推進事業

北東アジア地域における市民の環境保全意識を一層高めるため、北東アジア地域の各自治体の子供たちから「環境の保全」をテーマとしたポスターを募集し、優秀作品を一堂に展示する。

展示時期：令和8年9月

展示場所：ロシアトムスク州内（予定）

内容：北東アジア地域の自治体による環境ポスターの募集及び展示会の開催

(4) 国際環境協カインターン・ボランティアプログラム推進事業

将来の国際環境協力分野における人材を育成するとともに、大学等の研究機関との連携の強化、北東アジア地域の海洋環境保全に関する取組みへの理解の促進を図るため、インターンシップ実習生、ボランティアの受入れを行う。

4 NOWPAP 推進事業

【 41,150 千円 】

（うち富山県16,250千円、環境省24,900千円）

日本、中国、韓国及びロシアは北西太平洋地域海行動計画（NOWPAP）に基づき、日本海及び黄海の海洋環境保全のための事業に取り組んでいる。この事業活動の拠点として、各国に地域活動センター（RAC）が指定されており、日本ではNPECが特殊モニタリング・沿岸環境評価地域活動センター（CEARAC）に指定されている。

(1) 地域活動センター（RAC）事業 29,900 千円（うち富山県5,000千円、環境省24,900千円）

日本海及び黄海の海洋環境保全のため、環境省から業務を請け負うとともに富山県の支援を受け、次の事業を実施する。

① 日本海等の環境影響調査 15,900 千円（環境省）

- ・ **NOWPAP富栄養化状況評価手順書による予備評価の実施**

Global Eutrophication Watchにインプットするデータを拡張するため、欧州宇宙機関（ESA）のClimate Change Initiativeが提供するSeaWiFS、MODIS（Aqua）、MERIS、VIIRS、OCLIの複数のセンサをブレンドしたデータセットを入手し、長期時系列データの整備を継続する。

- ・ **富山湾海域モニタリング調査**

上記予備評価の精度向上のため、富山湾における富栄養化に関連する現場測定データの収集を継続する。

- ・ **リモートセンシングを活用した藻場マッピング**

七尾湾において、水中ビデオカメラによる藻場の調査を行い、その調査結果を教師データとして使用し、Seagrass Mapperを用いて衛星画像から藻場マッピングを実施する。また、富山湾、七尾湾等の藻場現場観測データを用いて、藻場マッピングの自動化に向け、大気補正及び水柱補正プロセスの改善を行う。併せて、モバイル音響観測機器による藻場の観測を行い、簡易な調査手法の開発を継続する。

- ・ **海草藻場におけるブルーカーボン変化量の推計**

七尾湾において、海草藻場面積の季節変動を把握するとともに、ブルーカーボンの変化量の推計を行うケーススタディを継続する。

- ・ **環日本海海洋環境検討委員会の開催**

赤潮／有害藻類の異常繁殖（HAB）をはじめ、リモートセンシング、富栄養化、生物多様性及び藻場マッピングの環日本海地域における海洋環境に係る課題、今後の活動の進め方等について助言を得るため、国内の専門家による環日本海海洋環境検討委員会を開催する。

開催回数：1回程度

開催地：東京都内

出席者：約20名

② **環日本海海洋環境ウオッチ推進費 14,000千円**（うち富山県5,000千円、環境省9,000千円）

ア 環日本海海洋環境ウオッチシステムの運用 10,000千円（うち富山県5,000千円、環境省5,000千円）

海洋環境に関する人工衛星データを収集及び解析するため、環境省が平成13年度に設置した「環日本海海洋環境ウオッチシステム」の維持管理をクラウド上で行うとともに、インターネット上で人工衛星による海洋環境データを取得し、画像化して公開する。また、藻場マッピングツールSeagrass Mapperの運用を通じて世界各地の藻場現場観測データを収集するとともに、世界的規模で藻場マッピングを展開する。

③ **イ 環日本海海洋環境ウオッチシステムの保守 4,000千円**（環境省）

環日本海海洋環境ウオッチシステムの安全性と安定稼働を確保するため、定常監視、脆弱性対策、不正アクセス監視等の保守管理を実施する。

(2) **地域活動センター（RAC）運営事業 10,250千円**

CEARACの活動を広く紹介するとともに関係機関との連携等を推進するため、CEARAC関連事業として次の事業を実施する。

① **会議費 5,250千円**

ア 会議の開催

- ・ **第23回日韓/第14回アジア海色ワークショップ**

日韓及びアジア地域の海色衛星観測分野における連携を強化するため、第23回日韓／第14回アジア海色ワークショップの開催を担当する。最新の研究成果の共有及び技術交流を通じて、当該分野における当財団のプレゼンスを高めるとともに、アジア圏における広域的な海洋環境モニタリングの推進を図る。

開催時期：令和8年12月

開催地：富山

参加者 : 50名程度

イ 会議への出席

各種の国際会議への参加

- ・ Geo for Good summit 2026
開催時期 : 令和8年10月
開催地 : 米国
参加者 : 2名程度
- ・ 北太平洋海洋科学機関 (PICES) 年次会合2026
開催時期 : 令和8年10月
開催地 : カナダ
参加者 : 2名程度
- ・ 第16回国際海草生物学ワークショップ
開催時期 : 未定
開催地 : アラブ首長国連邦
参加者 : 1名程度

ウ GEARAC ウェブページの更新及び維持管理

GEARACの活動を広く紹介するため、ウェブページの更新と保守管理を行う。

② 調査費 5,000千円

ア 富栄養化調査

NOWPAP地域等の富栄養化状況評価を支援するため、本活動に関する国内外の情報・資料を収集・整理する。

イ 赤潮/HAB 調査

*Cochlodinium polykrikoides*の学名が*Margalefidinium polykrikoides*に変更されたことを受けて、国内でも今後、新たな学名で運用する方針が決定した。これに伴い、GEARACがNOWPAPの重要懸念種として本種の情報を発信してきた「コクロディニウムホームページ」を更新する。

ウ リモートセンシング調査

NOWPAP地域等のリモートセンシングに関する活動を支援するため、Seagrass Mapperへの実装の検討に向けて、光学モデル融合型AIによる海草・水質モニタリング技術の検証を継続する。また、リモートセンシングに関する国内外の情報・資料を収集・整理する。

(3) RCU 連携事業 1,000千円

平成16年11月に設置されたRCU富山事務所を支援する。